

発見! 白井の仕事人 77

～梨・イチゴ作りにかける夢～

おおのたかし

生産者 大野太士さん



大野果樹園の直売所

今回は、根地区（白井木戸）で梨とイチゴの生産に取り組んでいる大野太士さんを紹介します。

大野さんは、曾祖父母が昭和9年に梨栽培を始めた大野家の長男として生まれました。小学3年生から大学までは野球一筋で、卒業後はサラリーマンになりました。会社勤めの一方で、休暇などに直

売所の手伝いをする中で農業を仕事として意識するようになります。

平成29年、自身の「大野果樹園の梨とイチゴのファンで、ずっと残していきたい」という思いを決め手に就農しました。

就農するまで農業の知識はあまりなかったようですが、梨作りは市内や印旛地域の若手梨農家が集まる「梨友会」に参加し、そこで栽培の基本から経営まで多くのことを学んでいます。「梨友会」の会員は同世代が多く、先輩にも気軽に質問できることが強みといいます。生産している品種は「幸水」「なつひかり」「豊水」「かおり」「あきづき」「新高」「にっこり」で、生産量の9割以上を直売で販売しています。

12月半ばから4月下旬は、ハウスでイチゴの生産を行っています。甘いイチゴを求めのお客さまの希望に応えたいという思いから、現在、「紅ほっぺ」「章姫」の2種類を生産し、その9割が直売です。

直売のよいところは、お互いの顔が見えること、人と人とのつながりをつくれることで、大野果樹園では、味はもちろん、お客さまが家を出てから帰るまで、そして直売所でのやりとりを他の人にも話したくなるような心に残る体験となるように心がけています。

2種類の作物を生産することは、手間も増えて大変ですが、梨生産の技術をイチゴ生産に生かすなど、両者が良い方向に影響しあっているようで、また、祖父の代から「土で味の9割は決まる」をモットーに、梨もイチゴも土づくりに最も力を入れています。

大野さんは「農業のプロとして最高の状態の農産物を提供することでお客さまに喜びや笑顔、幸せを届けたい」といい、「農業という、仕事がついと汚れるとかネガティブなイメージがありますが、実際には楽しんで仕事をしている人が多く、インターネットやSNSなども使って農業の楽しさを伝え、就農が増えるきっかけを作りたい」と、将来の展望を語ってくれました。

皆さんも木下街道沿いにある直売所で大野さんとの「物語」を紡いでみてください。

☎ 産業振興課農政班 内線3244



梨畑で作業をする大野さん